

平成23年10月28日

出版記念祝賀会発起人代表挨拶

1 はじめに

本日は、鈴木万亀子総師範著書出版記念祝賀会に北は北海道、南は沖縄から全国各地より多数ご臨席賜り誠にありがとうございます。

ご来賓として、加賀前田家第18代当主 前田利祐様、元デ杯選手 宮城 淳様、藤井道雄様、公益財団法人吉田記念テニス研修センター理事長 吉田宗弘様、同評議員代表 吉田和子様、同所長 高橋 剛様、公益財団法人防長倶楽部理事 松永勝人様にお越し頂いております。

ありがとうございます。

2 いままでの経緯

マナーキッズプロジェクトがスタートして約7年になりますが、今までに44都道府県で648回開催し、67,574人の幼稚園園児、小学生児童が参加しました。これも、鈴木万亀子総師範を始め皆様方のご支援のお蔭と心よりお礼申し上げます。

このプロジェクトの特徴は、スポーツ・文化活動と小笠原流礼法鈴木万亀子総師範とのコラボレーションにあります。よく、何故、テニスと小笠原流という質問があります。実は、本日お見えの加賀前田家第18代ご当主の前田利祐様とのご縁がきっかけです。平成17年4月にスタートした財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトの前に、平成8年12月から始まった早稲田大学庭球部小学生テニス教室があります。前田様は、いつ、いかなる時も姿勢が素晴らしいことから、小学生テニス教室の礼法指導をして頂きましたのが、きっかけです。日本テニス協会において実施するようになり、全国的なご指導をお願いしたところ、自分は礼法の専門家ではないのでということで、鈴木万亀子総師範をご紹介頂きました。爾来、年間約100回全国を回って頂いております。

本日、嬉しいニュースがあります。ここに盾がありますが、福岡支部が公益財団法人笹川スポーツ財団のSSFスポーツエイドアワード2010を受賞しました。受賞理由は、「スポーツを通じて子ども達が礼節を学ぶ事業であり、民間と行政の連携により導き出された先駆的な取り組みであることを評価」されております。これも、鈴木万亀子総師範が北九州市の全面的な信頼を得られ、新人教員研修会にも講師として招聘されておられることが大きな要因と考えております。

3 出版の経緯

さて、鈴木万亀子総師範著書の経緯ですが、マナーキッズ教室では、子どもがプレーしている間に、保護者に対して、鈴木万亀子総師範が「家庭内の躰」というお話をされます。非常に素晴らしく、一人でも多くの保護者に聞いてもらいたいという思いから、平成19年6月にNPO法人を立ち上げ、テニス以外のスポーツ、更には音楽他にも広がっております。NPO法人設立は、祝電を頂戴しております法政大学教授の山本 浩様のご助言に

より実現したものです。

また、一人でも多くのお母さんに「家庭内の躰」の内容を知って欲しいと、同じく発起人の大藤耕治様、C & R 研究所池田社長と出版を鈴木万亀子総師範にお願いしましたところ、最初は固辞されましたが、根負けされ、ご承諾を得た次第です。

巻頭に「おばあさんの気持ちで書いた」また、巻末に「気がつけば、この本に記した事柄すべては、父と母が有言無言で教えてくれた事柄でした」と記載されておられますが、あたり前のことが忘れられているのが現状です。

何故そうなったのでしょうか。

私は、戦争に負けてからおかしくなったと思っておりました。ところが、毎年マナーキッズ大使研修会を本日公益財団法人吉田記念テニス研修センターの吉田宗弘理事長がお見えですが、吉田記念テニス研修センターで実施しておりますが、前田利祐様は、100数十年の間に3回、明治維新、敗戦、バブル期、日本の伝統的な良さをなくした、そういう事例は他ではないようです。従って、根は深いといえます。

しかし、マナーキッズ教室では、最初は姿勢が悪く、声も小さいのが、終る頃には親が驚く程、姿勢がよくなり、大きな声が出るようになります。礼儀正しさのDNAは残っていると確信しております。マナーキッズ教室を通じて、子どもが変わる、指導者も変わる、親、先生も変わるという逆の循環を期待しております。

マナーキッズ大使を英国・ウインブルドンに派遣しましたが、子どものマナーの低下は万国共通のようです。地域共同体の崩壊、宗教の影響力の低下が理由とのこと。日本は600年以上も続く小笠原流礼法があることに驚きます。そして、スポーツと日本の伝統的な礼法との連携でマナーを良くする試みに関心を示します。

時間はかかりますが、必ず「変わる」と確信しております。

4 創生期から第二段階に

マナーキッズプロジェクトの今後ですが、我々のプロジェクトは「太平洋のゴミ拾い」と言われております。全国には約860万人の幼稚園園児、小学生児童がいることを考えると、そう言われてもやむを得ないと思います。太平洋から日本海、そして「琵琶湖のゴミ拾い」と言われるようになるためには、やり方を変える必要があります。

いわゆる創生期から第二段階に入ったものと考えております。

今まで二人で全国を飛び回っておりましたのを、現在各地に支部を結成中ですが、各支部で実施出来る体制を構築中で、後継者の育成が至上命題と思います。そのためにも本日は、小笠原流の師範の皆様、マナーキッズプロジェクト各支部の皆様がお集まりですが、鈴木万亀子総師範著書出版祈念祝賀会を期に第二段階に向けて、次代を担う子ども達のためにご支援賜りますことをお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。